

# みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.139号 2025年6月25日発行

## 春のバザー 2025

昨夜の雨で露に濡れた庭…そんな朝の始まりだった。徐々に集まってきたメンバーがテーブルやイスをガラガラと運び出す。前日に仕上げた花束をテーブルに並べ、値付けされた花束の数々を売場へ運ぶ。手作り小物、リユース品も担当者が手際良く並べてゆく。

「お客さんからの見え方はどうかな？」

「案内の紙はここに貼ろう」



「おっと！リンデンバームの樹の下が草ボーボーだ」  
急いで草刈りをする。ここは、ハンドトリートメントを行う特別な場所。ふるまいのハーブティーの東屋へのアプローチも整えていく。

バザー開催時はお日さまも顔を出し、穏やかな温かい空間になった。院内の宣伝ブースでは、庭への順路案内やミニ販売（外出できない方もいらっしゃる）が行われる。バザー帰りの方々が「ありがとうございます」と声をかけてくれる。いやいや、こちらこそ「ありがとうございます」なのだ。

来場してくださった方々に感謝！お日さまに感謝！そして、笑顔で打ち上げのテーブルを囲めたメンバーひとりひとりにありがとう！お疲れさまでした！

[佐藤]

## 新しく参加された会員の皆様を紹介します

◎自然が好きで、趣味で野山の観察会や探鳥会に参加したり、自宅でポール・スミザーさんの本を教科書に、生きものが集う庭づくりに励んでいます。グリーンボランティアに通うごとに、この場所が人にも自然にもやさしい庭だと感じていて、そんな皆様の思いが詰まった庭づくりのお手伝いができ、とてもうれしいです。  
[笠谷未央子]

◎受診の際、院内から庭に出ると急にゆっくり静かな時間が流れるのが好きです。花を撫でていた息子に「お花、好きなんだね？」と尋ねたら「お花見てる時ね、お母さんが笑ってるから」と言われ、思わずぎゅーっとしました。皆様一緒にガーデンで過ごすことができ、とても嬉しいです。元気に沢山参加できるよう頑張ります。  
[谷景子・聡一郎]

◎私は広島で福祉の仕事をしていたので、以前より鎌田先生の在宅医療や介護に対する考えに共感していました。その憧れの病院にこんな素敵なガーデンがあるなんて理想です。美しい花や木々の緑が、たくさんの方々や私自身の癒しとなることを信じています。 [広瀬るり子]



◎移住の際の決め手の一つに諏訪中央病院の存在がありました。そして通院が始まり、合間にハーブガーデンをちょっとのぞいて、癒しの異空間に驚き感動しました。その後、縁あってボランティアのお誘いを頂き、このガーデンと関われることになり、とても嬉しく思っています。さらに庭仲間もできて、移住生活にも彩りを与えてくれそうです！ [広瀬洋一]

◎息子が入院していた際に、病室からハーブガーデンが見え、ボランティアの方々でお手入れされていることを知りました。植物達や、ボランティアの皆さんのことを知れば知るほど、より素敵に感じるガーデンが、これからも末永く続くよう微力ながら頑張りたいと思います。教えて頂くことばかりかと思いますが、よろしく願いいたします。 [ゆうか・駿]

## コラム No.31

## 「植物の適応力」考

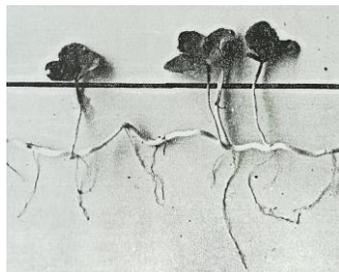


高等植物は種子や地下茎などによって生息域を広げていきますが、一世代に限ると同じ地点にほぼ固着生活しているといえますね。必然的に、置かれた環境に対してかなり大きな適応力を持っていると考えられます。環境要因は水・光・温度・土壌要因など様々ですが、ここではハマニガナという全国たいがいの砂浜に生息しているキク科植物の水を吸う力、

吸水力の変化を紹介しましょう。

夏場の砂浜は50℃を超える表面温度になりますし、数日間晴天が続くと砂浜は水不足にもなります。

では、どのように適応しているのでしょうか。植物の本体は砂の中を横長く潜る地下茎として存在し、光合成のための葉だけを直接砂の上に出すという特殊な生活型をしています。そして吸水力を増すために、地下茎に蓄えていた多糖類を低分子の糖類に分解し、細胞液中の粒子数を増加させて浸透圧を上げます。水は細胞膜を隔てて浸透圧の高い側に移動します。これが水を吸うという力の原理です。逆の場合、多糖化して浸透圧を下げる反応も起こります。



浸透圧は低い時で7気圧位ですが、高い時で28気圧をも超えます。

[金子]